

4. 実習の実施

最後に実習そのものに関する報告をする。A、B、C、Dの各クラスを担当した実習生が、実際の活動に基づいた各クラスの報告書をまとめている。Aクラス、Bクラス、Cクラス、Dクラスと続き、次には8月13日に実習中の課外活動として行われた常滑への遠足、実習の最終日に行われたフェアウェル・パーティー、最後に実習後に学習者に対して行われた事後アンケートの結果に関する報告である。

執筆担当者

Aクラス	長谷川・林
Bクラス	河口・越賀
Cクラス	大島・太田
Dクラス	稲田・国沢
遠足	長谷川
フェアウェル・パーティー	稲田

<大島>

4. 1. Aクラス

I. 担当実習生

長谷川紀子・林真紀

II. クラス目標

Aクラスの目標は、「日本で生活するのに必要となるサバイバル日本語の習得」とした。Aクラスの学習者は、ほぼ日本語学習経験が無く、生活に必要な語彙、表現を習得し、実際場面で使用できるようになることが必要だと考え、目標とした。また、日本での生活で遭遇するだろう場面に、コースの中で予め触れておくことで、学習者の日本の生活や日本語使用に対する負担を軽減できるようにすることができると考えた。

III. 学習者

Aクラスには6名の学習者が在籍した。夏季教育実習の日本語コースに参加した学習者には、JETプログラムによって来日したALTと、民間会社アルティアセントラル所属のALTがいたが、Aクラスに参加した学習者はすべてJETプログラムによって来日した新規のALTだった。JETプログラムで来日した新規ALTは、本コースへの参加が義務付けられていたため、出席率は非常に高かった。

学 習 者	国 籍	性 別	学 習 暦	滞 日 期 間	参 加 日
A	アメリカ	女	0	0	全日
B	イギリス	女	0	0	全日
C	イギリス	女	0	0	全日
D	イギリス	女	0	0	全日
E	イギリス	男	1ヶ月	0	常滑遠足以外全日
F	カナダ	男	0	0	全日

IV. 学習者のニーズ・レディネス

学習者のニーズとレディネスの調査は、来日前に E メールで行った事前アンケートと、来日後のプレースメントテストにて行った。

事前アンケートの結果、レディネスについては学習者 E のみが 1 年間の日本語学習経験があるとのことだったが、その他の 5 名については学習経験が皆無だった。ニーズについては、焦点を当てて欲しい内容として会話を挙げた学習者が多かった。日本語学習の最終目標としては、目標の低い順に、挨拶ができる程度、友達とおしゃべりを楽しめる程度が各 1 名、日常生活がこなせる程度、仕事で使用できる程度が各 2 名だった。

来日後のプレースメントテストは、事前アンケート実施時期からの期間が空いたため、その間に学習者が日本語学習を進めている可能性があると考え、名前や出身を尋ねる等の簡単なやりとりを行う中で学習者の既習の表現を明らかにした。また、50 音表を用いてひらがなとカタカナが読めるかを確認した。その結果、学習者 B と E はごく簡単な自己紹介ができ、ひらがなをいくつか読むことができた。しかし、他の学習者は全く日本語でやりとりができず、日本語学習は開始していなかったようだった。

V. シラバス

	9:30	10:30	11:30	12:20	
8月10日(水)	オリエンテーション ひらがな(発音の練習) 林		自己紹介 長谷川		
8月11日(木)	ひらがな① (あ~そ) 長谷川	注文(1) 指示語 林	数① (数字・価格) 長谷川	注文(2) 林	昼食 (大学付近の ファストフード店にて)
8月12日(金)	電話(1) 体調を表す表現 林	ひらがな② (た~も) 林	電話(2) Vたい・理由 長谷川		
8月17日(月)	ひらがな③ (や~ん) 林	数② (時間・日にち) 林	スケジュール確認 長谷川		
8月18日(火)	ひらがな④ (は・ば・ぱ,他) 長谷川	場所をたずねる 林	買い物(大学内の生協にて)		
8月19日(水)	誘う(1) 勧誘表現・誘いを受ける 長谷川	習字	誘う(2) 誘いを断る 林	フェアウエル パーティー	

VI. テキスト編纂

2002年度、2003年度に作成、使用されたゼロ初級クラスのテキスト『すいか』を改訂し、『ひまわり』を作成した。『ひまわり』作成の方針として、毎日の授業で学習する内容は全てテキストに記載し、授業で取り上げない項目はテキストに含めないことにした。その際、学習者に合ったレベルの内容にすること、テキストのモデル会話をより自然なものに近づけることに注意した。テキスト中の英語での解説については、英語母語話者にネイティブチェックを依頼した。

シラバス、カリキュラム、テキストの作成は、事前アンケート実施後に開始した。実際に学習者に会ってインタビューする前に行わなければならなかったが、ゼロ初級の場合は学習者のレベルが決まっているため取り掛かりやすかった。

VII. クラス内容

2005年8月10日	1限目	担当：林
学習事項		
オリエンテーション ひらがなの発音 教室用語		
授業の流れ		
<ol style="list-style-type: none"> ① 自己紹介(名前のみ)、カリキュラムの説明 ② ローマ字で「かな」の発音練習 ③ 教室用語の紹介 		
反省		
<p>初日ということで緊張している様子であったが、教師の話を非常に集中して聞いていた。ひらがなの発音は、口が回りにくく、なかなか上手くできない学習者もいた一方で、学習済みだった学習者は、終始退屈そうだった。このレベル差を解消する工夫が必要であろう。読みの練習の為だけにとまって用意してきた語や文の意味への関心が予想以上に強く、時間をとってしまった。語の意味でなく、読みをたくさん練習してもらう為には、予め意味を記したプリントを後で配布する等の改善が必要であろう。</p>		

2005年8月10日	2限目	担当：長谷川
学習事項		
自己紹介（多数の前での発表形式） 名詞文「Nです」「Nですか」「Nじゃありません」		
授業の流れ		
<ol style="list-style-type: none"> ① 自己紹介（名前・出身・職業）、挨拶「よろしくお願ひします」 ② 質問・否定 ③ 人物の名前を質問、確認するタスク 		
反省		
<p>日本語を少し学習した学習者にとっては簡単だった様子。一方で、日本語の発音自体に慣れていない学習者もいて、ゼロ初級とは言っても多少差があることがわかった。自分自身の落ち着きが足らず、導入の順番を一部誤ってしまった。学習者も授業の進め方がわからなかったためか、多少雰囲気がかたかった。</p>		

2005年8月10日	3限目	担当：長谷川
学習事項		
自己紹介（1対1の会話形式） 「こちらこそ」「ご出身は」「そうですか」「どちらですか」、名刺交換		
授業の流れ		
① モデル会話を数パートに分けて提示 ② クラス内で名刺交換の方法を確認し、自己紹介と併せて練習 ③ Bクラスの学習者、教師と自己紹介をし合うタスク		
反省		
授業開始時に、授業の最後に B クラスのメンバーと自己紹介をし合うことを伝えると反応が大きく、動機が高まったようで、練習はみな熱心だった。スムーズに進み、雰囲気も和んだ。B クラスとの自己紹介のタスクが盛り上がり、学習者も達成感を得られたようだった。		

2005年8月11日	1限目	担当：長谷川
学習事項		
ひらがな「あ」～「そ」		
授業の流れ		
① ローマ字復習 ② 行ごとに読み、書き順を導入、フラッシュカードで練習 ③ あ行からさ行までの 15 文字全てを用いて読みの練習 ④ ひらがなビンゴ		
反省		
いろいろな練習を行うことができたが、学習者はもっと書く練習もしたそうだった。最後のビンゴは、皆楽しんでいたので盛り上がった。		

2005年8月11日	2限目	担当：林
学習事項		
<p>こ（れ）・そ（れ）・あ（れ） Nはなんですか Nをおねがいします・ください N1とN2 飲食物に関する語彙</p>		
授業の流れ		
<p>① 「こ」「そ」「あ」の使い分けの導入、練習 ② レアリアを用いて、「指示詞+なんですか・ください・お願いします」の練習 ③ 絵カードで、飲食物に関する語彙の導入</p>		
反省		
<p>初めはあまり理解していない様子であったが、練習を繰り返すうちに適切に使えるようになっていった。ペアワークが多すぎて、各学習者の話す機会が少なくなってしまう、自分の番以外は暇そうにしていた。単調にならないように活動の仕方を工夫する必要がある。使用するレアリアや物が多すぎたので、教師自身が混乱してしまった。十分整理して、段取りよく進行しなければならなかった。</p>		

2005年8月11日	3限目前半	担当：長谷川
学習事項		
<p>数字0～10、100、1000 金額を尋ねる</p>		
授業の流れ		
<p>① 0～10を導入、練習 ② 100の位、1000の位の数 ③ 「いくらですか」 ④ ペアで値段を尋ね、答えるタスク</p>		
反省		
<p>数字は、学習者が予想以上に知っていたこと、授業時間が予定より短くなったことから、導入も練習も一通り簡単に行っただけでタスクに移った。しかし、やはり確認と練習はもう少しきちんとして行った方がよかったように思う。</p>		

2005年8月11日	3限目後半	担当:林(長谷川)
学習事項		
注文の仕方、タスク		
授業の流れ		
① 実際のオーダーシートを使用して、注文の仕方を練習 ② 学校付近のファストフード店にて注文、昼食。		
反省		
<p>授業で、教師が店員役となり、ファストフード店での実際の流れを何回も練習したことで、実際の注文場面での緊張感や不安感が減少できたのではないだろうか。ただし、時間配分を失敗し、全体的に教師の落ち着きがなかった。もっと学習者の様子に配慮できるよう、冷静さや余裕を持たなければならなかった。</p> <p>ファストフード店でのタスクにおいて、各学習者は自分の食べたいものを注文することができ、満足している様子であった。昼食をとりながら会話をすることで、教師と学習者のよい交流の場ともなった。</p>		

2005年8月12日	1限目～2限目前半	担当:林
学習事項		
電話に関する表現、電話番号の聞き取り、形容詞、ひらがな「た」～「も」		
授業の流れ		
① 絵カードで、電話場面と表現方法を導入 ② 電話での会話を代入ドリルで練習 ③ 電話番号の聞き取り練習 ④ 絵カードで形容詞の導入、練習 ⑤ 前回(「あ」～「そ」)の復習をした後、ひらがな表とフラッシュカードで練習 ⑥ 既習のひらがなを用いてカルタゲーム		
反省		
<p>コーラスや会話練習に積極的に参加していた。前回、数字を学習したので、復習をかねて電話番号の聞き取りを行ったが、数字の聞き取りはやはりまだ困難な様子だった。救急車や警察の番号を紹介すると熱心にメモをとっており、自分の生活に関することを授業に用いることで、興味や関心を高められたのではないだろうか。</p> <p>カルタを用いて「ひらがなばばぬき」をしたが、学習者全員非常に楽しそうだった。ただし、時間や人数を考慮して、カードを減らす等の工夫をした方がよかった。</p>		

2005年8月12日	2限目後半～3限目	担当：長谷川
学習事項		
<p>病気で学校を欠勤することを電話で伝える 動詞文「～をV」「～にV」、「Vたいです」「Vたいんですが」 「大丈夫ですか」「お大事に」 電話の表現「もしもし」「失礼します」</p>		
授業の流れ		
<p>①「大丈夫ですか」「お大事に」 ②動詞文「～をV」「～にV」 ③希望「Vたいです」、理由＋言いさし表現「～のでVたいんですが」 ④電話会話をモデルに沿って練習 ⑤電話をかけて欠勤を伝えるロールプレイ（内線電話使用）</p>		
反省		
<p>たくさん動詞を導入し、少し長いモデル会話を練習した。練習は段階的に十分に行えたため、ロールプレイは全員成功し、学習者は自信を持つことができたようだった。練習用の教材も適切に作ることもできたと思う。</p>		

2005年8月17日	1限目	担当：林
学習事項		
<p>復習「た」～「も」 ひらがな「や」～「ん」</p>		
授業の流れ		
<p>①フラッシュカードで前回のひらがな（「た」～「も」）の復習 ②「や」～「ん」の導入、練習 ③パズルを用いて、ひらがなの総復習</p>		
反省		
<p>「ら行」の発音に困難さを感じている様子であった。やはり、初回の発音の練習で、しっかりと練習するべきであろう。パズルは全員楽しく、積極的に取り組んでいた。プリントを見て確認しながらでない不安な学習者がいたが、他の学習者も、時々その学習者にアドバイスするなどして、ペースに合わせて進めていた。</p>		

2005年8月17日	2限目	担当：林
学習事項		
時間・日にち・曜日の表現		
授業の流れ		
④ 時計と数字マグネットを使用し、時間の導入、練習		
⑤ カレンダーと語呂合わせ文で、日にち、曜日の提示		
反省		
<p>「時間表現」に時間をかけすぎ、単調になってしまった印象がある。特に本実習の学習者においては、練習方法や活動に変化を与えるなどして、集中力をきらさない工夫が必要だったと思われる。</p>		

2005年8月17日	3限目	担当：長谷川
学習事項		
過去「Vました」		
確認の文末の「ね」		
聞き返し		
授業の流れ		
① 動詞復習、新出語導入		
② 過去「Vました」		
③ 確認の「ね」、会話練習		
④ タスク（最終日のパーティーに必要な物の個数を担当実習生に確認する）		
反省		
<p>学習者は既習の動詞を予想以上によく記憶していた。「Vました」の練習で時間を使いすぎてしまい、会話練習が十分にできないままタスクを行わなければならなくなった。タスクは結果的には成功したが、練習が中途半端なままタスクに入ったので、学習者の自信には必ずしもつながらなかったと思う。</p>		

2005年8月18日	1限目	担当：長谷川
学習事項		
ひらがなの直音以外全て（濁音、半濁音、拗音、促音、長音）		
授業の流れ		
<ul style="list-style-type: none"> ① ひらがな直音復習（ひらがなレース） ② 濁音 ③ 半濁音 ④ 拗音 ⑤ 促音 ⑥ 長音 ⑦ 街の中のひらがな表記の看板、表示を読む練習 		
反省		
<p>学習項目が多すぎた。直音をきちんと覚えていた学習者はあまり混乱することなく取り組めたようだったが、直音があやふやなままだった学習者はかなり混乱していたようだった。最後まで「難しい」という印象が拭えないまま終わってしまった。</p>		

2005年8月18日	2限目	担当：長谷川
学習事項		
<p>ここ、そこ、あそこ、どこ 存在文「います」「あります」</p>		
授業の流れ		
<ul style="list-style-type: none"> ① 存在文 ② ここ、そこ、あそこ ③ ～はどこですか ④ 会話練習 		
反省		
<p>「これ、それ、あれ」が導入済みだったので、スムーズに導入、練習を行うことができた。学習者も積極的に練習に参加してくれた。</p>		

2005年8月18日	3限目	担当：林
学習事項		
位置を表す語彙 XはYの～です		
授業の流れ		
<p>① 位置を表す語彙「上・下・右・左・前・後ろ～」を提示 ジェスチャーを交えて提示、練習</p> <p>② 「XはYの～です」 教室内のものを使用して位置関係の表し方を提示、練習。シートで練習。</p> <p>③ 買い物場面でのダイアログ練習</p> <p>④ インフォメーションギャップのタスクシートを使用して、会話練習</p> <p>⑤ 大学内の生協で買い物タスク</p>		
反省		
<p>教師のジェスチャーが不明確になってしまった時があった。位置を表す練習は、予めたくさん準備していたのだが、時間の関係上かなり省いた。しかし、学習者はよく理解している様子であった。インフォメーションギャップのタスクは、少し複雑であったので、混乱するかもしれないと心配していたが、始める前に教師で具体的なやり方を例示したので、スムーズに行え、タスクに活発に取り組んでいた。最後に行った大学生協での買い物は、実践的であり、学習者にとっても満足度の高いものとなったのではないだろうか。ただ、教室で行った学習項目よりも容易な会話で達成できてしまったり、自分で既に見つけてしまったものの場所を従業員に聞くなど、オーセンティックではない場面もいくつかあった。もう少し、彼らにとってチャレンジングなタスク内容になれば、より有意義であったと思われる。</p>		

2005年8月19日	1限目	担当：長谷川
学習事項		
<p>勧誘の表現 「Vません」「Vませんか」「Vましょう」 「いいですね」「ぜひ」</p>		
授業の流れ		
<p>① 新出語彙導入（今日・明日等、動詞） ② 「Vませんか」 ③ 「いいですね」「ぜひ」 ④ 「Vましょう」 ⑤ 会話練習</p>		
反省		
<p>新出語彙リストを作ったことで学習者がノートをとる時間を短縮できた。一つ一つの項目の導入、練習はよかったが、最後の会話はあまり盛り上がらなかった。導入や練習方法がこれまでの会話練習と同様だったため、学習者が飽きてしまったのではないかと思う。</p>		

2005年8月19日	2限目前半	担当：長谷川・林
学習事項		
習字		
授業の流れ		
①学習したひらがなを用いて、各自好きな言葉を毛筆で書く。		
反省		
<p>毛筆体験自体に非常に興味を示し、各自、活発に文字を書いていた。学習者間で時間のかけ方がかなり異なり、終盤にかけて集中力がなくなっている学習者もいた。</p>		

2005年8月19日	2限目後半	担当：林
学習事項		
疑問詞の復習 断り方の表現		
授業の流れ		
① 疑問詞の確認 「なんですか」「いくつですか」「いくらですか」 「なんじ」「なんようび」		
② 断り表現 ダイアログを発展させ、「～があるので…」「～はちょっと…」を使って断る練習		
反省		
<p>疑問詞の復習で、反応が予想よりよくなかったので、時間をかけてしまった。断る時の言いよどみの部分に興味をわいた様子で、大変感情をこめて言っていた。少し不自然すぎる印象もあった。</p> <p>疑問詞の部分に時間をかけすぎたことが原因で、準備していた「誘いをうける・断る」のタスクを行えず、理解ができたかどうかの確認を行うことができなかった。授業のポイントがずれてしまったことが最大の反省点である。</p>		

VIII. 授業後アンケート

VIII-1. アンケート概要

Aクラスでは、以下のような質問項目を設け、授業後アンケートを行った。尚、「3」～「6」に関しては、実習生の個人研究テーマの為に設けられたものである。

作成するにあたっては、学習者の負担とならないよう、簡潔でわかりやすいものを作成することを目指した。そこで、前年度の各クラスの授業後アンケートを参考に、授業の満足度、内容構成、教師に関する質問項目を設定し、次回の授業へ生かす反省材料とした。

	いいえ ←	1	2	3	→	はい
1. 今日の授業に満足しましたか。		1	2	3		4
→満足した点()						
→不満な点()						
2. 今日の授業内容を理解できましたか。		1	2	3		4
→「理解できなかった」場合は、何が理解できなかったのか教えてください。						
()						
3. 今日のタスク活動はうまくいったと感じますか。		1	2	3		4
→その理由()						
4. 実際の生活でも、(タスクと)同じ事を行う自信がありますか。		1	2	3		4
5. 日本語を勉強するのに、ひらがなの勉強は必要だと思いますか。						
いいえ						はい
6. ひらがなを勉強したいと思いますか。						
<input type="checkbox"/> いいえ						<input type="checkbox"/> はい
→ <input type="checkbox"/> 「読み」のみ						<input type="checkbox"/> 「読み」と「書き」
7. (授業内で)話す機会がありましたか。						
少ない						多い
あまり多くない						
8. (//)考える時間が十分にありましたか。						
ない						多い
あまり多くない						
9. (//)教師の話すスピードは。						
早すぎ						遅すぎ
適切						
10. (//)無駄と思われることはありましたか。						
はい						いいえ
→いつ()						

VIII-2. アンケート結果

以下は、実習生の研究テーマ用の質問項目を除いた授業全体に関わる評価についてのアンケートの結果である。表の中の数字は、評定の数値である(いいえ← 1 2 3 4→はい)。

8月10日(水)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	3…4人 4…2人	満足→自己紹介、Bクラスとのタスク 不満→ローマ字、かなは既習、もっと文法的な説明がほしい
2 理解度	3…1人 4…5人	助詞「は」の役割がわからない 理解に時間がかかったが、最終的にはわかった
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	あまり…2人 多い…4人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ある…1人 ない…5人	自己紹介・かなは既習
8月11日(木)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	3…2人 4…4人	満足→実践的、学習と実践のバランスがいい、楽しかった 不満足→ひらがなの進度がはやい
2 理解度	3…1人 4…5人	ひらがなをもっと自分で学習する必要があると思う
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	多い…6人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ある…1人 ない…5人	ひらがなは既習
8月12日(金)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	3…1人 4…5人	満足→とても楽しかった
2 理解度	2…1人 4…5人	理由の述べ方、助詞の使い分けがわからない
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	あまり…1人 多い…5人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ない…6人	

8月17日(水)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	2…1人 3…4人 4…1人	満足→ひらがな、過去形 不満足→タスクシートの理解に時間がもう少し必要だった
2 理解度	3…3人 4…2人 無記入…1人	時間・日にちの言い方が難しい
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	あまり…2人 多い…4人	
9 教師の話す早さ	適切…5人 早すぎ…1人	
10 無駄なこと	ない…6人	
8月18日(木)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	2…1人 3…1人 4…4人	満足→場所の聞き方 不満足→ひらがなにかける時間が十分でない
2 理解度	2…2人 3…1人 4…3人	ひらがなが難しい 「あります」と「です」の違いがわからない
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	ない…1人 あまり…2人 多い…3人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ない…6人	
8月19日(金)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	4…6人	満足→とても明確で楽しかった とても役立つものだった
2 理解度	4…6人	
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	多い…6人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ない…6人	

不満な点を具体的に書いてもらうことで、対処法を探すことができ、よかった。全体的には、ひらがなに対する困難さや不満の意見がよくみられた。

Ⅸ. 全体の反省

以下に、授業を行っての感想と事後アンケートからの学習者の評価を踏まえ、実習全体を通しての反省点を述べる。

<授業・コース内容>

学習者からは、もっとひらがなに時間をかけてほしいとの意見があった。ゲームは楽しかったが、記憶の助けになっているのかどうかを疑問視する学習者もいた。

会話練習は、「とても役立った」「楽しかった」との評価が得られたが、時々教師の説明が不十分と感じている学習者もみられた。「場所をきく」の項目は学習者にとって簡単であったようなので、もっと早い段階で組み込んでもよかったのではないだろうか。

アクティビティでは、クラス目標でもある「実際の使用場面に触れる」活動を多く取り入れたが、それによって教室で学んだことが実際の会話場面に使えるという喜びにつながっていたように思われる。

ノートをとりたいがる学習者が多く、その時間に何かを指示しても伝わらなかった。ノートをとる時間をどう捉えるかにも考察の余地があったと思われる。指示の仕方も不明確な時があった。

一つのトピックを複数の教師で分担する場合、それぞれが担当する授業内容を教師間で十分に検討、話し合うことができれば、授業の流れや内容の質がもっと上がったのではないだろうか。

<教科書・教材>

昨年度使用のすいかを検討し、必要な内容、項目のみを選定した。ゼロ初級ということで、比較的、早い段階から計画的に進められたのではないだろうか。事後アンケートの結果からも、シンプルで生活に必要な学習項目がカバーされたシンプルな教材だったとの感想が得られた。他にも、「英訳が役立った」、「文法説明がよかった」との評価が学習者から得られた。

タスクシートに予めファイル用の穴をあけておくことはとても有効だった。もっと絵等の工夫をし、理解の助けとなる情報を加えられるとよかった。

<次回以降の実習生に伝えたいこと>

教科書については、昨年度の教材に関する事後アンケートでは、「説明が豊富でよかった」「今後の自主学習に活用できる」等の意見があった。今年度は、あえて必要だと思われる

項目のみにしぼり、より簡潔なものを目指したが、昨年、今年度のそれぞれの長所、短所についてさらなる検討の余地があるだろう。

ゼロ初級は、全クラスの中で比較的レベルが予測しやすいクラスであると思われる。教材・教具作りに時間がかかるので、できるだけ早めにとりかかり、後の作業に十分な時間がとれるよう、計画的に進めるとよいだろう。

<長谷川・林>